

FSC 森林認証取得の諸塚の材で
「九州の家は九州の木でつくる」

素材の良さを追求する環境共生住宅

FSC環境共生の家づくり

- グループ名：諸塚村産直住宅家づくりネットワーク ◎グループ代表者／黒木 雅文(耳川広域森林組合)
- 事務局：諸塚村産直住宅推進室 ◎事務局担当者／松村 泰宏(諸塚村産直住宅推進室)
宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代2683 電話 0982-65-1116
- グループ構成員：原木供給…3社、製材・集成材製造・合板製造…1社、建材流通…2社、プレカット…3社、
設計…2社、施工…6社

- 平成24年度・25年度・26年度採択グループ
- 平成25年度 採択戸数4戸、交付決定件数3戸
- 平成26年度 地域型住宅の供給予定戸数20戸(うち長期優良住宅5戸)

諸塚村産直住宅づくりネットワークは、平成8年に持続可能な森づくりを進める諸塚村と都市部の設計事務所、工務店が連携し、環境共生住宅を九州限定で展開する「諸塚村産直住宅プロジェクトチーム」の結成から始まる。地域材を活かした家造りのあり方を検討する会議や、家を建てたい人に諸塚村を見てもらう産直ツアーなどを重ね、実際に諸塚の木材を使った住宅も建てるなどして実績を作ってきた。

さらに平成16年には森林の国際認証制度であるFSC認証を諸塚村が取得して、諸塚産の木材のブランド力を高めた。諸塚村で代々大切に守られてきた針葉樹と広葉樹の森は地域の財産であり、将来も持続可能な森林である。そこから生産される木材が、生産から加工まで、品質、性能、強度などが厳しく管理され、かつトレーサビリティが明瞭なFSC森林認証材として付加価値を持ったことになる。木材が持つ二酸化炭素の固定機能を数値化することで、地球温暖化防止に貢献するカーボンストック住宅としてのアピールもできる。

地域型住宅ブランド化においては、FSC森林認証を取得した地域材を使って「九州の家は九州の木でつくる」という理念で、気候風土に合った環境共生型の長期優良住宅による地域型住宅の供給することを目的としている。

主用材には、環境にやさしい葉枯らし自然乾燥製品を使用し、耳川広域森林組合加工施設から建築現場へ直送。柱、桁は

4寸角以上とし、構造材は80%以上、内装材、造作材、下地材は過半に諸塚産の木材を使用することを共通ルールとしている。

もともと、諸塚村産直住宅は、耐久性、耐震性を備えた「長寿の家」、素材の良さを追求する木の家づくり、環境共生住宅、伝統技術を活かしたローテクの家づくり、適正なコストなど、住む人の立場になって造る家を目指しており、都市部との交流を含めて山を守る諸塚村独自の取り組みが、長期優良住宅の流れにぴったりと当てはまったといえる。

平成25年度には4戸が採択され、平成26年度の供給は20戸を予定している。今後のグループの課題として、長期優良住宅認定、設計性能評価の取得において、未経験の構成員が含まれていることから、地域型住宅の仕様説明会、長期優良住宅・設計性能評価研修会の実施や、施主に向けて具体的に提案できるよう住まい手像を明確にした長期優良住宅プランを作成し、仕様や見積もり内容を共有などに取り組む。すぐれた地域材を活用しながら、グループ全体のさらなる向上を目指している。

家と庭の専門家が造る「家+庭」の提案

株式会社 粋の家

「粋」と書いて「こだわり」と読ませる社名は、29歳で独立した代表取締役の重面精

一さんが、自らの家造りにかけるこだわりを表現したもの。「頑固なこだわりではなく、粋なこだわり。ベテランの職人さんたちとの仕事でも、『そういうこだわりならやってやるよ』と受け入れてもらえるかもと思って」と笑う。創業から10年、重面さんがこだわり続けるのは、「家プラス庭」の提案だ。



高校、大学と造園科で学んだ重面さんが目指していたのは庭師。卒業後は造園や公園の管理などをしてきたが、そこから家造りに転身したのは、新築住宅の庭を手がける時、庭師の立場では提案ができなかったこと。庭造りのプロなのに、腕を振るうチャンスがない。「それから夜の学校に通って建築を学びました。お客さんと緑のある住空間を作り上げるためには、建築から携わるべきなんだと思ったからです。ですから、敷地の環境をよく見て、庭を含めた全体のイメージを作って、それから家の配置、間取り、外観などを決めていく。それが当社の家造りのスタイルです。」

そんな「こだわり」の重面さんが主に使うのが諸塚村産の材木。諸塚村は、持続可能な森林として国際的な認証機関による



FSC認証を取得しており、環境保全に貢献する材木として以前から注目していたという。「諸塚村は早くから環境への取り組みを始めて、発信し続けています。その付加価値が住む人にうまく伝わっていくといいですね。」

重面さんが言う「家プラス庭」の提案は、ハードよりも住む人のハートを大事にしたいという思いが込められている。断熱性能や耐震性能など、家の構造的なことから、住む人の安全を第一に考えれば当たり前のこと。「だからこそ、窓の外にふと見える緑に和んだり、これからの暮らしをより楽しく快適に思い描いてもらえるような家造りがしたいんです」。多くの家造りでは後回しになりがちな庭だが、実は住環境に大きな役割を担っているのだという。もうひとつ気付いたことが、家を建てる時に庭も一緒に考える夫婦は、仲がいいということ。花や木は住む人を連想させるもの。そしてそういう

家は、外から見える家の様子、ひいては通り、まち並にまで思いが届く人たち。「そんな夫婦は仲がいい。なんとなく納得できますよね。家族の思いを十分に聞いて、腕のいい大工や庭師に伝えて形にするのが当社の仕事です。」



株式会社 粋の家
代表取締役
重面 精一さん

Profile

株式会社 粋の家(こだわりのいえ)
代表取締役 重面 精一
設立 平成●年●月
〒880-0021 宮崎県宮崎市清水1丁目10番39号
TEL.0985-73-7761・FAX.0985-23-2887
http://kodawarinioie.com

見極めた産直材で建てる 自然を取り込み、楽しむ家

株式会社 建築工房 自然木

「独立後の記念すべき第一棟から諸塚産の木材を使っていました」という村田義弘さんは、地方の山を見に行きそこから運んだ産直材で家を建てるような、造り手と山との関わり方を東京で勤めていた設計事務所です。鹿児島に帰郷し独立した後は、もっと地域の風土や暮らし方に合う家造りをと模索し続けている。

平成11年に帰郷した村田さんは、理想の材を求めて九州の山を歩き始めた。しかし当時は地元産の木材を乾燥材として製品化しているところは諸塚村や熊本県の上津江などわずかしかなかった。その中で諸塚村は村を挙げて環境に配慮し、化学物質の散布を行わない点でも注目すべき山だった。それからしばらくして、事務所を開設して初めて家造りの相談に訪れた人から「諸塚にいい木があるそうです」と言われ、一緒に見に行ったこともあった。

こうした出会いを縁に、諸塚村とのつながりができ、村田さん独立後第1棟目の展示会では、諸塚村産直材で建てた家の数値を図る環境測定会が行われた。地域型ブランド住宅のグループができる以前から諸塚村には産直住宅ネットワークという組織があり、産直材を使って建てた家のVOC(シックハウスの原因とされる揮発性有機化合物)環境測定を熊本大学の研究チームと行っていた。展示会には建築関係者や多くの研究者、マスコミが集まって、シックハウス対応をする工務店として話題を集めた。



その後、東京時代の同僚、先輩などとも情報交換を続け、さまざまな勉強会にも参加し続けるうち、「健康に安全に暮らすのは当たり前、その上で地域の自然と